

ライフスタイルセンシングを活用した地域の健康見守り & 支援体制構築事業

実績報告書（概要版）

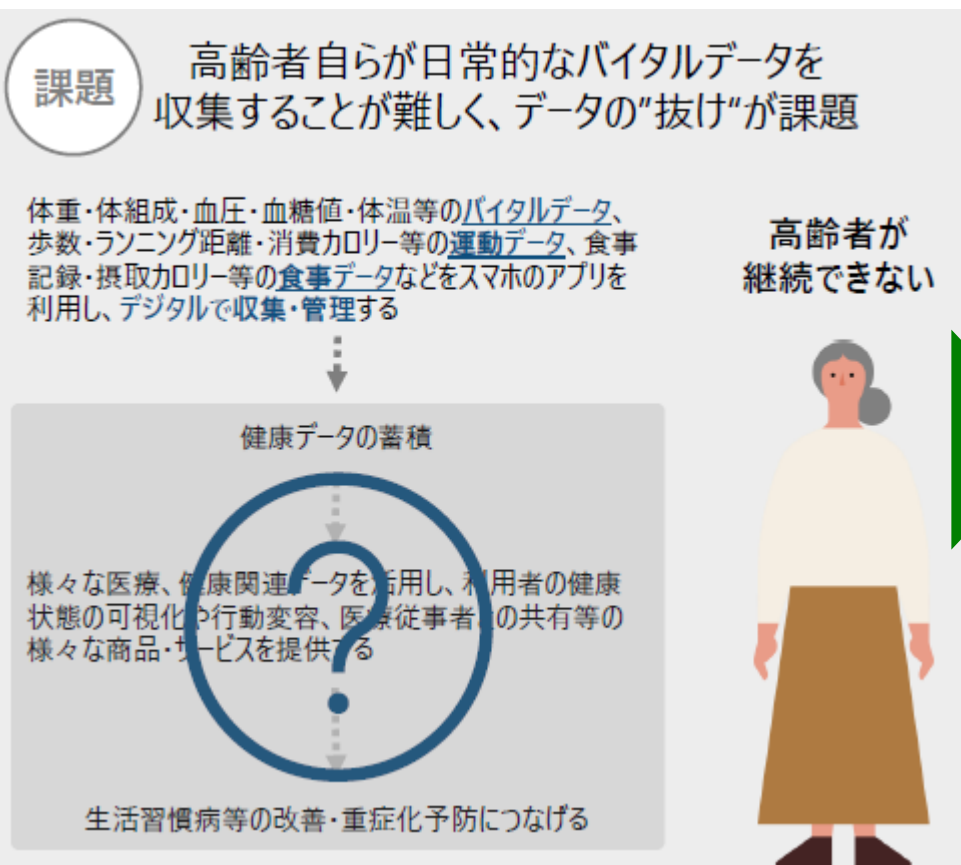
地域の健康見守り & 支援体制構築コンソーシアム

（構成員：MBTリンク株式会社、喜茂別町）

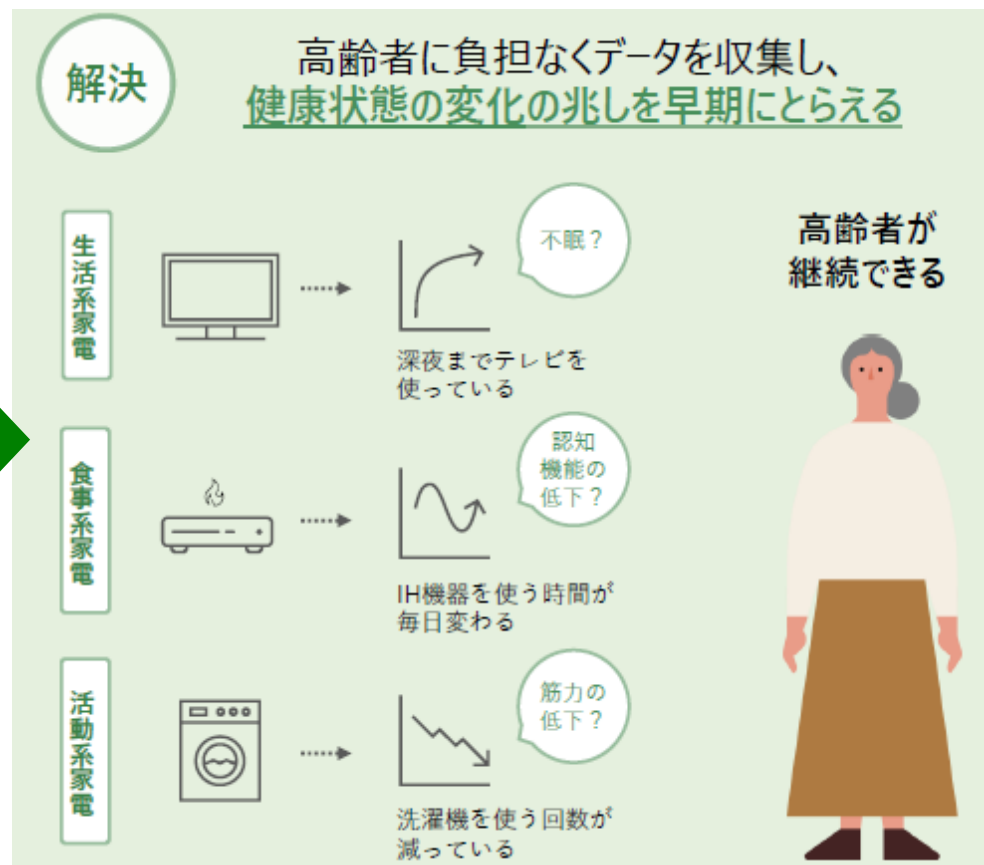
1. ライフスタイルセンシングの仕組み(1/2)

- 主たる対象者である高齢者自らが、計測器、ウェアラブルデバイス等を使用し継続的に健康情報を記録することが難しいことから、それらの情報を対象者の不調の早期発見に活用することは極めて難しい。しかし、高齢者負担の無いデータ収集手段(＝ライフスタイルセンシング)であれば、そのような健康見守り用途に活用できる。

< 従来の健康情報の把握方法 >



< ライフスタイルセンシング >



1. ライフスタイルセンシングの仕組み(2/2)

- ライフスタイルセンシングは、電力センサにより測定した各家電の使用状況から対象世帯の生活習慣を点数化し、その活動性の低下を点数の変化から検知、通知する仕組み。利用者（対象世帯、その家族等）は電力センサを設置するだけで利用可能であり、日々の計測、記録、報告といった負担は一切生じない。

< ライフスタイルセンシングを活用した健康見守りの3ステップ >

Step 1 設置

分電盤に電力センサーを簡単設置

圧倒的なデータ量



電力・電流を正確に測る

分電盤に1つのセンサーを付けるだけ

施工・設定も非常に簡単(20分程度)

AIで家電を自動検出



主要家電10種を識別可能
データ量は他社の30倍

※1分に1回の計測頻度

Step 2 検知

家電の使用状況から生活の変化を検知

ライフスタイルセンシング



生活系家電
(テレビ等)



不眠?

深夜までテレビを
使っている



食事系家電
(IH機器等)

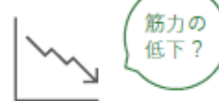


認知
機能の
低下?

IH機器を使う時間が
毎日変わる



活動系家電
(洗濯機等)



筋力の
低下?

洗濯機を使う回数が
減っている



Step3 措置

様々な支援体制による早期サポート

家族・医療・介護・福祉等の連携



ご本人



サポート体制

家族の安心。
暮らしが変わる、家族がつながる

2. 実証事業概要

- 高齢化の進行により単身高齢者世帯が多く、その効果的、効率的な健康見守り方法を模索していた北海道喜茂別町をフィールドにライフスタイルセンシングの仕組みを活用し、地域の健康見守り&支援体制構築事業するための実証事業を実施。

項 目	内 容
目的	① ライフスタイルセンシングの仕組みを活用した効果的、効率的な健康見守りサービスの提供 ② 自治体、医療機関、福祉事業者等の連携によるライフスタイルセンシングを活用した地域の健康見守り&支援体制の構築
実施期間	開始：2024年8月28日（水） 終了：2025年3月31日（月） ※デジタルチャレンジ推進事業（地域づくり総合交付金地域づくり推進事業）の交付内示が2024年10月29日、交付決定日は同年12月25日
対象	① 喜茂別町内の健康見守りサービスの活用可能性の高い世帯50世帯 ② 喜茂別町内の医療、福祉関係事業者
実証方法	Step1：ライフスタイルセンシングの仕組みの理解促進&設置世帯募集 Step2：希望世帯へのライフスタイルセンシングツールの設置 Step3：設置世帯のモニタリング Step4：地域の健康見守り&支援体制構築
事業の成果	<実証年度目標> ■ ライフスタイルセンシングを活用した健康見守りサービスの提供。得られたデータの域内連携機関（医療、介護等）実証的活用を通じた、地域の健康見守り&支援体制構築の実現可能性検証 <最終目標> ■ ライフスタイルセンシングを活用した地域の健康見守り&支援体制の構築（遠隔医療、医療相談含む）と継続維持

3. 実証事業結果

3-1. 希望世帯へのライフスタイルセンシングツールの設置

- ・ 実証期間中、ライフスタイルセンシングツールの設置を町内20世帯に実施。設置済世帯に対し、事後に訪問しモニタリングしたデータをもとに生活習慣の変化等に対する説明、フォローアップを実施。

設置工事	フォローアップ
第1弾 設置工事 期間：2024年12月6日（金）～12月7日（土） 設置世帯：12世帯	—
—	第1弾 フォローアップ 期間：2024年12月6日（金）～12月7日（土） 訪問世帯：4世帯
第2弾 設置工事 期間：2025年1月17日（金） 設置世帯：5世帯	—
—	第2弾 フォローアップ 期間：2025年2月6日（木） 訪問世帯：7世帯
—	第3弾 フォローアップ 期間：2025年2月18日（火） 訪問世帯：5世帯
第3弾 設置工事 期間：2025年3月11日（火） 設置世帯：3世帯	—
合計 20世帯 への設置を完了	合計 16世帯 へのフォローアップを完了

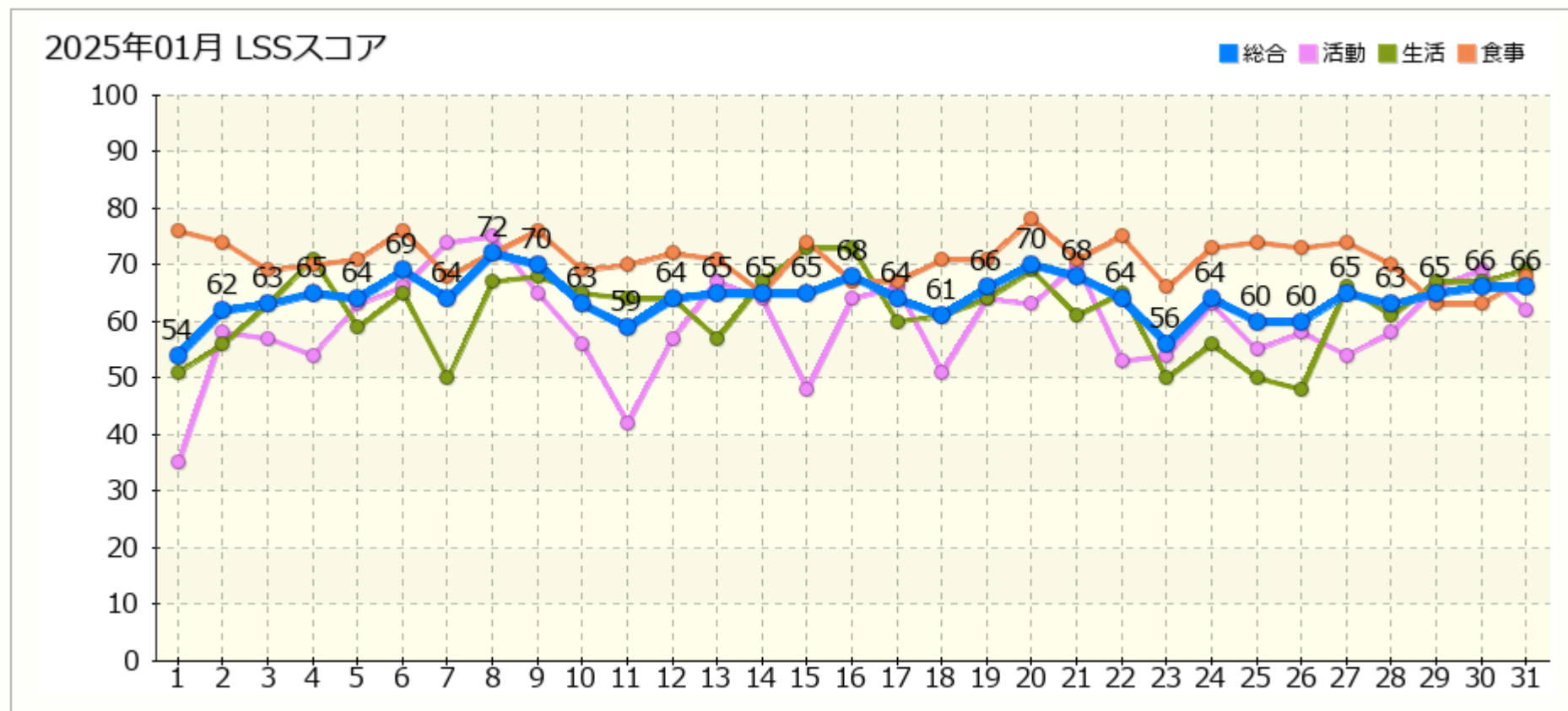


3. 実証事業結果

3-2. 設置世帯のモニタリング(1/2)

- 一部、スコアの低下がみられた世帯があったが、フォローアップにより確認したところ、体調の不良を原因とするケースは見られなかった。喜茂別町内設置世帯の多くは総じてスコアの高い世帯が多く、規則正しい生活を送っている世帯が多いことが確認された。

< 喜茂別町設置世帯のモニタリングデータ (sample) >



3. 実証事業結果

3-2. 設置世帯のモニタリング(2/2)

- ・ 導入世帯、その家族から当該健康見守りの仕組みについて、総じてポジティブな反応が得られた。
- ・ 一方、世帯本人、その家族に当該見守りの仕組みを説明し、理解を得ることが導入ハードルとなるケースも見られる。さらなる普及のためには、わかりやすく丁寧な説明が求められる。

属性	意見、感想
① 設置世帯本人	<ul style="list-style-type: none">● 設置後、一定期間が経過した後に点数について説明を受けた。自身の生活習慣の乱れに自身で気づくことが難しいが、データから確認ができたので安心できた。● 細かい仕組みはよくわからないが、自分の生活習慣が点数として確認できるので面白い。● 見守りの仕組みが良くわからず、カメラで見られているものと勘違いしていた。仕組みやデータが、誰でも理解ができるような説明や資料が必要だと思った。● 興味関心はあるがこの仕組みを使うことを、離れて暮らしている自分の子供たちに自ら説明し理解を得ることが難しい。
② 設置世帯のご家族	<ul style="list-style-type: none">● 自身は遠隔地に居住しており喜茂別町内に単身で親が居住している。定期的に様子を見に行っているが、降雪のある冬季間は訪問にかかる労力も大きい。LSSの仕組みにより親の生活状況が即時把握できることから、頻繁な訪問をせずとも少しは安心できる状態になった。● 自身含め兄弟姉妹は離れて暮らしているため、それぞれアプリを導入し喜茂別町に暮らす親の様子を確認している。データから何か不安があればすぐに電話で確認するようにしている。● ただ安否を確認できるものと異なり「今、何をしているのか（何の生活家電が使われているのか）」がわかることから、見ている側としてもより安心できる。
③ その他行政関係者	<ul style="list-style-type: none">● 従来の高齢者見守りでは週1～2回程度の架電を実施。健康状態確認の際「心配をかけまい」と考えるのか、実際の状態よりも良く見せようとする傾向があり、不調の有無を客観的に把握することが難しい。実際にどのような状態にあるかデータから把握できるというLSSのメリットを感じた。● 北海道では特に冬季のストーブの消し忘れが事故につながるケースも多い。こうした消し忘れの発見検知にも活用できないか。● またLSSは住宅内での生活家電利用状況から生活習慣をスコアリングするものと理解したが、ウェアラブル端末のデータとの連動により屋外での活用状況なども加味したスコアリングとなるとより良いと感じた。● 高齢者に限らず医療・福祉サービスにおいて提供側の人的リソースも減少傾向にある中、こうしたツールの利活用により、省力化、効率化につながると感じた。

3. 実証事業結果

3-3. 地域の健康見守り&支援体制構築

- ・ 実証期間中、域内の医療・介護にかかるステークホルダーとの協議を通じ、当該ライフスタイルセンシングの仕組みを活用した地域の健康見守り&体制構築にかかる協議を実施。高齢者世帯に対する利活用に加え「障がい当事者の地域移行時の支援ツールとして」「産前産後女性のケア」といった領域への展開可能性を確認。

体勢構築検討&合意形成プロセス

① 地域内ステークホルダーへのレク

開催日：2024年11月15日（金）

参加者：喜茂別町元気応援課、MBTリンク（株）、喜茂別町社会福祉協議会

目的：ライフスタイルセンシングの仕組み、それらを活用した地域の健康見守り体制に向けた当該実証事業の概要紹介

結果：ライフスタイルセンシング活用メリットについて理解を得た。従来の架電&訪問による見守りでは、対象者が自身の不調を正直に伝えない場合もあることから、①客観的データにより変調を把握できるメリット、②当該スコアを活用した見守り訪問宅の優先順位付けなどのメリットがあることを域内ステークホルダーに認知いただいた。

② ライフスタイルセンシング技術の活用シーン検討

開催日：2025年1月17日（金）

参加者：喜茂別町元気応援課、MBTリンク（株）

目的：ライフスタイルセンシングの仕組みの具体的な活用シーンを検討

結果：地域支援事業での活用を検討（次頁参照）。次回、域内ステークホルダーが集まる地域ケア推進会議での体制構築、活用方針検討を決定。

③ 地域ケア推進会議の開催

開催日：2025年3月26日（水）

参加者：喜茂別町社会福祉協議会、ケアプランセンターころようてい/ケアセンターころようてい、社会福祉法人愛和福祉会愛和の里きもべつ、喜茂別町元気応援課、MBTリンク（株）

目的：ライフスタイルセンシングを活用した地域の健康見守り & 支援体制の構築、次年度以降の用途拡大検討

結果：単身高齢者世帯以外に①障がい者の地域移行、②産前産後女性のケアなどへの適用可能性を確認。



4. 実証事業の評価と今後の課題

- 当該実証事業を通じて、町内高齢者世帯を主な対象とし、LSSセンサの仕組みを活用した健康見守りサービスの提供と、地域の健康見守り＆支援体制の構築を進めることができた。さらなる利用者、活用用途の拡大に向けて継続的な事業実施が求められる。

項 目	内 容
目的	<ul style="list-style-type: none">① ライフスタイルセンシングの仕組みを活用した効果的、効率的な健康見守りサービスの提供② 自治体、医療機関、福祉事業者等の連携によるライフスタイルセンシングを活用した地域の健康見守り＆支援体制の構築
結果	<ul style="list-style-type: none">① ライフスタイルセンシングの仕組みを活用した効果的、効率的な健康見守りサービスの提供を実施することができた。モニタリングの結果、体調の不良を原因としてLSSスコアが大きく変動したケースは見られなかった。総じてLSSスコアの高い世帯が多く、設置世帯の多くは規則正しい生活を送っていることが確認された。② 自治体、医療機関、福祉事業者等の連携によるライフスタイルセンシングを活用した地域の健康見守り＆支援体制の構築を実施。域内ステークホルダーとの検討を通じて、高齢者世帯に対する利活用に加え「障がい当事者の地域移行時の支援」「産前産後女性のケア」といった新たな領域への展開可能性が示された。当該実証事業以降、さらなる活用領域の拡大が期待される。
得られた課題	<ul style="list-style-type: none">● 効率的、効果的な健康見守りサービスの提供のためには、LSSセンサのさらなる設置世帯の拡大が必要となる。その費用負担方法（利用者 or 行政）や財源確保といった具体的な検討が必要となる。● LSSセンサ設置過程において、仕組みやメリットへの理解が得られずに設置に至らないケースも生じた。さらなる利用者拡大のためには、適者による、わかりやすく、丁寧な説明が求められる。